



愛顔(えがお)あふれる

愛媛県

令和6年度愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業

ノーリフティングケアの 更なる普及を目指して

2025.2.27



「やさしさ」を抱きしめよう



愛媛県ノーリフティングケア普及啓発事業講師
(愛媛県介護実技普及指導員・講師)

守谷理佐 成川ゆかり

目次

1. 更なる普及を目指して
 - 1) 浸透・普及できない理由は何か明確にしていく
 - 2) 職場内で浸透させるために必要なこと
 - 3) 普及していくために必要と思われるもの
2. 取り組んできた推進事業所・協力事業所と
意見交換とまとめ

更なる普及を目指して

ノーリフティングケアの浸透を妨げるものは なにか

現在、事業所で課題と感じていることはなんですか？

■普及啓発事業 昨年度のアナケートより

●課題と感じていること

【職員意識】

【教育体制】

【技術等】

【福祉用具の使用法等】

●講師や事務局等への質問や要望、ご意見

【研修等の実施】

【福祉用具・使用法等】



現在、事業所で課題と感じていることはなんですか？

※昨年度のアンケートより

■職員意識

- ・意識統一ができていない
職員によって、今まで通りの介助になっている
職員間で差が生じている
協力的でない、取り組もうとしない職員がいる
- ・ノーリフティングケアの重要性が施設全体に浸透していない
- ・人員が少なく気の焦りから時間に追われる
- ・時間短縮のため福祉用具を使用していない
(使わない方が介助するのが早いという考え方の職員もいる)
- ・福祉用具の正しい使用方法を理解せずに使っている職員が多い
など

浸透できない理由（例）

- 動機が不明瞭

他の事業所が導入しているから、そろそろ…

- 目的が不明瞭

なぜ始めるのか不明瞭のまま→

目的が職員に伝わらない

- アセスメントが不十分

対象者の状態に合った福祉用具や介助方法が
選定できていないことで使わなくなる

変革（ノーリフティングケア）を妨げる「壁」の存在

「壁」は当たり前と思って取り組む

「現状維持」の壁
「対立感情」の壁

「理解」の壁
「共感」の壁

「具体化」の壁
「基準」の壁

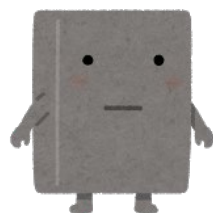
「継続」の壁
「効力感」の壁



自分たちの施設・事業所では「壁」は何か
明確にしておかないと解決にはつながらない

ノーリフティングケアを妨げる「壁」はなにか

- ・変わらないことの正当化
- ・どんな利得があるのか、実感値が持てない
- ・変わるきっかけがない
- ・誰も変革を主導してくれない
- ・何を変えればいいのか、わからない
- ・どうやって変わればいいのかかわからない
- ・効果検証ができない、はっきりわからない など



協力事業所のアドバイスはとても有効

問題の見える化から課題設定へ

現状から、まずは目標⇒目的

一つひとつの目標に向かうところの問題なのか
現状が目的に沿っていないのか など



解決策を考える
ステップ

1. 問題

現状と本来目的にしていることとのギャップ

2. 原因

妨げとなっているものは何か

3. 課題

原因の把握で課題が明確になり、
取り組むべきことに気づく

職場内で浸透させるために必要なこと

1 職場の意識統一 一番難しいところ 時間がかかってあたりまえ

①単年度、中・長期の計画を事業所全体で立てる

②話し合うこと

③生活支援の知識・技術の伝達

◦目先の時間を考えて介助することで、ゆくゆくどうなるのか

⇒二次障がい→重度化＝双方の負担＋時間・費用がかかる

予防するためには、24時間トータルセーフティケアが重要

- ・状況を把握する アセスメントができるようになること
- ・姿勢を見ること、整えること
- ・利用者のできることをしてもらう時間を確保すること
(ゆとりを持つこと)
- ・テクノロジー等の活用(介護ロボット、福祉用具・機器)

職場内で浸透させるために必要なこと

2 職場環境の整備

① **体制を整える** 委員会メンバーが就業時間に活動できること

② **物質的な環境**

- ・道具(福祉用具・機器)をそろえる

- ・空間を整える

練習場所を設ける

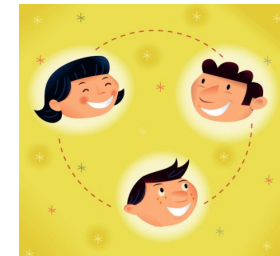
居室内を整理整頓して、

すぐに福祉用具が使えるように配慮する

3 練習を重ねる

① 誰でもいつでも**練習できる環境**を準備する

② **技術を評価**する仕組みを作る



普及していくために必要と思われるもの

- 事業所全体で取り組むための労働衛生管理体制の整備

- 多職種での連携

専門職からの伝達・指導を受けて、介護職が行える体制づくり

- 固定観念、先入観の払拭 アップデートをしていきましょう！

現状を維持したいという気持ちも受けとめる。取り組んでいくなかで
利用者や他の職員の変化によって現状が改善されていく成果が
見えるようになると心に変化が現れる可能性がある

- 教育体制

アセスメント技術の向上→介護過程の理解＝ケアの質の向上

これからの介護

①テクノロジー

介護ロボットや福祉用具・機器、ICTを駆使する
負担軽減につながる便利なものは、便利に使っていく

重度化したから使う ≠
自立支援や重度化予防の
ために使う

●双方の負担軽減

②テクニク

介護の知識や技術を磨く。人が絶対行うべきところ 介助場面の技術だけではなく、
アセスメントや利用者を観察する目も磨く

③非密着・非密接ケア

腰痛、二次障がいの予防だけでなく、感染症対策としても必要

ノーリフティンングケアを含む

トータルセーフティケアを全ての事業所で

推進事業所・協力事業所
の皆さんと意見交換

【ノーリフティングケアに取り組んだ事業所との意見交換】

- この事業に参加しての気づきなど自由に意見交換してください



アナログとテクノロジー
うまく活用して
ノーリフティングケアを含む
トータルセーフティケアが
愛媛県全体で
普及することを目指して
今後も活動していきましょう

